

富士見町議会行政視察報告書

平成28年8月24日

富士見町議会

議長 加々見 保樹 殿

川 合 弘 人

平成28年6月定例議会において、議決された閉会中の議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

テーマ : 鹿沼市の「まちの駅 新・鹿沼宿」について

視察先 : 栃木県鹿沼市 まちの駅 新・鹿沼宿

説明者 : まちの駅 新・鹿沼宿駅長 峰崎 茂房 氏

実施期日 : 平成28年8月18日

富士見町議会は8月17日、18日の両日、全議員が参加する行政視察を行いました。今回のテーマは、千葉県松戸市の「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」と、栃木県鹿沼市の「まちの駅 新鹿沼宿」です。

初日は松戸市役所を訪問し、同市が独自で取り組む新しい介護予防について、担当課長から話を聞きました。

2日目は鹿沼市の「まちの駅」を訪問しました。「まちの駅」とは、市民や観光客が気軽に立ち寄り、地域の情報などを得られる交流の場です。「おもてなしの心」を大切にし、「トイレと休憩所」を無料で借りられること、まちの案内人がいて「地域情報」を発信する場であることが設置の条件です。全国まちの駅連絡協議会に加盟し、「共通の看板」を掲げれば、個人商店も「まちの駅」となることができます。「道の駅」との大きな違いは、24時間営業ではない、ということです。

鹿沼市では、公設民営の「まちの駅 新・鹿沼宿」が旗艦店舗となっているほか、計103カ所の個人商店、資料館などの既存店舗、施設が「まちの駅」に加盟し、「ネットワークかぬま」を作っています。

富士見町議会は、「新・鹿沼宿」を訪問し、鹿沼市議会の横尾武男議長から歓迎のあいさつを受けました。このあと、峰崎茂房駅長と職員から説明を聞きました。

鹿沼市は人口9万8000人。林業と農業のまちとのことです。横尾議長は「宿泊施設が少ないことが課題。もっと多くの観光客に泊まってもらいたい」と言っていました。

「新・鹿沼宿」は、ジャスコ跡地に市が約9億5500万円の事業費で建設した公設民営の施設です。2011年4月29日、中心市街地にある観光交流拠点施設としてオープンしました。経営は民間の運営協議会が行っています。

当初は「道の駅」を目指していましたが、周囲が住宅地のため、24時間営業を断念し、「まちの駅」としました。敷地面積は約6500平方メートル。そば店などが入る本館と、野菜や特産品の直売所である物産館、トイレ、駐車場、芝生広場があります。営業時間は本館が午前9時～午後7時。最も長い駐車場・トイレは午前6時30分～午後8時30分です。物産館、そば店、軽食コーナーは占用使用料を徴収しています。売り上げの1%が市に入ります。

建設の経過は、1991年にジャスコが撤退したことから始まります。跡地利用について様々な案が出る中で、2005年に中心市街地新拠点整備計画「まちなか創造夢プラン」を策定。

「新・鹿沼宿」をつくることで、観光客が市内を回遊し、楽しめる街づくりを目指しました。2年後に旧ジャスコ建物を解体。2010年から工事に着手しました。

オープンから5周年となる昨年度の売り上げは約4億円です。峰崎駅長は「予想以上の金額だった」と驚きを語りました。その

うち、約7割が物産館の売り上げです。来場者は県外客が11%にとどまり、地元の年配の女性客が中心です。新鮮野菜を買い求めています。本館の「鹿沼そば店」も売り上げを伸ばしています。トイレは、本館、物産館の外観イメージに合わせた一体感のある設計で、「日本一きれいなトイレを目指しています」とのことでした。女性トイレにはステンドグラスも設置されていました。

課題は「周りの商店街に客が回遊しないこと」だと何度も語っていました。この点ではまだ所期の目的が達成されていないということです。しかし、「おもてなしの心を崩さないことが大事」だとも話していました。



『鹿沼市 まちの駅 新・鹿沼宿 職員から説明を聞く議会議員』